

平成24年度教員評価結果のまとめ

1. はじめに

本学は、平成14年度に教員の研究活動に関する予備調査を実施し、平成15年度には「大学評価・学位授与機構」が試行評価の際に用いた指標に準拠して教員評価を行うとともに、得られた結果を学内公表することで、教員評価制度の定着と醸成に努めてきた。

このような経過を踏まえ、平成16年には、本学教員の教育研究活動等を包括的かつ定量的に把握する中で、教員個々人の継続的な自己改善に役立て、本学自体の活性化にもつなげる目的で、大学評価委員会・教員評価専門部会を設置し、本学独自の教員評価データベースを構築すると同時に、具体的な教員評価項目や評価基準、及びその実施細目も定めた。その上で平成17年度からは、上記評価項目・基準等に基づいて個々の教員のその前年度における教育研究活動実績を数値化して定量的に評価し、平成23年度には、評価項目の内容や総合評価方式等に改善を加え、更に充実した評価制度を構築した。その結果は、各教員への教育研究費の次年度配分のみならず、賞与等の待遇面にも反映させている。

なお、得られた教員評価結果の大要は、平成18年度からは学内のみならず学外にも公表することとしているので、平成24年度分の評価結果の概要をここに「まとめ」として公表するものである。これまでの評価結果については、既に本学ホームページ上に情報公開済みであるので、必要に応じて参照されたい。

http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/outline/pubdoc/kyoin_hyoka/kyoin_hyoka.html

また、以降の本文中に記されている「年度」とは、「評価対象とした年度」を指すこととしているので、留意されたい。

2. 評価結果

2. 1 全学的評価

本学の教員評価制度は、(1)教員の教育活動 E (授業負担, 学生指導), (2)研究活動 R (過去 10 年間研究業績, 最近 2 年間研究業績, 外部資金), (3)大学運営に関連する学務貢献 U 並びに(4)社会貢献及びその他 S の 4 分野に大別して設計されており、これら 4 分野における目標値に対する達成度を用いて総合評価点を算出し、各教員の評価を行っている。

以下に教員評価結果の内容を説明する。

表 1 は、平成 23 年度と平成 24 年度における評価項目別評価点及び総合評価点について、全体の平均値を示した表であり、評価項目別評価点については、目標値に達した場合に 1.0 となるように設計されている。

なお、それ以前の結果については、平成 23 年度に評価項目や評価方式等において大きな見直し

を行っているため、単純比較ができないことから、ここでは取り上げないことを付記する。以下表2、表3においても同様である。

平成24年度教員評価結果について、平成23年度との比較で見ると、研究分野R「外部資金」において、数値が上昇している。

また、教育分野E及び研究分野Rについては、引き続き目標値を上回る水準を示しており、平成23年度には目標値を下回っていた先述の研究分野R「外部資金」においても、平成24年度は目標値を上回る結果となっている。

表1 評価項目別評価点及び総合評価点

年度	教育分野E		研究分野R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去10年間 研究業績	最近2年間 研究業績	外部資金			
H23	1.117	1.270	1.584	1.836	0.957	0.794	0.707	125.87
H24	1.031	1.151	1.581	1.198	1.016	0.664	0.695	113.67

2.2 学科別評価

表2は、平成24年度における各教員の総合評価点を学科別に集計し、その平均値の平成23年度における同平均値に対する比率を示した表である。

いずれの学科も前年度に比べ、平均値は低下している。

表2 学科別総合評価点の推移

年度	機械工学科	社会環境 工学科	電気電子 工学科	情報システム 工学科	バイオ環境化 学科	マテリアル 工学科	共通講座
H23	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)
H24	0.915	0.867	0.941	0.913	0.847	0.944	0.912

2.3 職層別評価

表3は、平成23年度と平成24年度における評価項目別評価点及び総合評価について、職層別に集計し、その平均値を示した表である。なお、評価項目別評価点については、表1と同様、目標値に達した場合に1.0となるように設計されている。

表3(a)に示す教授については、教育分野E及び研究分野Rともに、目標値1.0を大きく上回る水準を維持している。

表 3 (b)に示す准教授・講師については、教育分野 E の全ての項目及び研究分野 R のうち「過去 10 年間研究業績」の項目が目標値 1.0 を上回っている。

表 3 職層別評価点

(a) 教授

年度	教育分野 E		研究分野 R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去 10 年間 研究業績	最近 2 年間 研究業績	外部資金			
H23	1.286	2.032	2.479	2.495	1.200	0.986	1.050	169.62
H24	1.201	1.858	2.536	1.660	1.383	0.874	1.000	156.38

(b) 准教授・講師

年度	教育分野 E		研究分野 R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去 10 年間 研究業績	最近 2 年間 研究業績	外部資金			
H23	1.275	1.037	1.100	1.517	0.893	0.861	0.644	113.61
H24	1.193	1.005	1.184	0.865	0.938	0.711	0.701	103.61

3. まとめ

本学の教員評価制度は、達成度評価方式を取り入れた本学独自の特徴ある方式であり、平成 16 年度に実施を開始して以来、丸 9 年を経過した。その間も、教員評価制度の意義と趣旨を活かしながら、より簡素で効率的な新しい評価制度を実施すべく、各種改善を行ってきた。

平成 24 年度教員評価の結果は、前年度と比較すると評価点は全体的に低下しているが、これは当該年度において、教授等の定年退職後の補充による助教の採用数が、例年に比し、多かったことがその一因として考えられる。

しかしながら、教育分野及び研究分野については、引き続き目標値を上回る水準を示しており、これは本評価制度の導入により、個々の教員が教育活動・研究活動等に努めてきた結果であり、教員評価制度を本学の活性化につなげようとの本来の意図は、有効に機能してきたと自己評価できる。

今後もこれまで同様、公明・公正で、透明・明瞭な評価を行うべく教員評価制度の更なる充実を目指すものである。